全国保育実践交流会ニュース

東海地区　2023 年度 3 月発行

今年度、東海地区では年長交流も 5 園が揃って行うことができ、職員も子どもたちも共に学び合い、交流を深めることが出来ました。そして新しい年を迎え、年長児は卒園に向けて秒読みの保育になっています。今年度は、1 月の雪合宿後に 4 回の日帰り交流の後、5 園揃ってのお祝い会を迎えることができました。
この秋から冬にかけての各園の取り組みをお伝えします。

東海地区 5 園の秋・冬のとりくみから

縄編み交流合宿　9/5(火)～6(水)　蓮華の家共同保育園・つばさっこ保育園

1 泊で縄編み合宿を蓮華で行いました。以前は東海地区5園で行っていましたが、人数が多くなってきたのでここ数年は分かれて行い、蓮華はおひさま、つばさっこと一緒に行っています。今年はインフルエンザの流行のため、おひさまは参加できず、つばさっこ 1 人の参加でした。佐藤美津子さんに来てもらいリズムをした後、縄編みの話に入り、小さい子たちも見ている中、6 人 1 組で手で手繰って布を裂きました。自分の縄跳びの色を選ぶ時の子どもたちの目は真剣そのもの。全員自分が決めていた色を選ぶことができたと嬉しそうでした。

昼寝から起きるとすぐに“縄編みやりたい！”と言い出す子どもたち。保育士が編むのを見てから始めたのですが、どの子も見ていたのと自分が編むのとでは大違いのようでした。それでも翌日も熱心に取り組み 1 人 2 人と“出来た！”と喜びの声が上がりました。“おめでとう！”“凄いねえ！”の声が飛び交い、不器用ながらも嬉しそうに跳んでいる子たち。それらを感じながら頑張って編み続ける子どもたちが繰り広げる風景は毎年ながらとても感動します。
宿泊は蓮の実。そこでは保護者の人たちによって“ホップステップジャンプくんのお話をテーマにしたレストランが用意されていて、籠にはホップくんがいたり、窓には凧のムラクがいたりで子どもたちは大喜び。珍しいチェコ料理を頂いて“ホップステップジャンプくん”のお話を聞いて寝ました。子どもたちにとっては運動会に向けて新たな一歩を踏み出した縄編み合宿でした。

運動会　10/19(木)　たけのこ保育園

久しぶりに人数制限のない運動会で、お父さん・お母さん・おじいちゃん・おばあちゃん、たくさんの人が集まりました。狭いながらも工夫を凝らして、子どもたちの成長や素敵な姿が見られ、観客席からは声援が飛び交いました。雨になったらどうする？駐車場係は？など保護者会の役員にも知恵を借り、用具係では4歳児の保護者の方にお願いし、力を発揮していただきました。
最後は、3～5歳児が鯉の滝登りを楽しみました。久しぶり行いましたが、子どもたちを落とさないように保護者も真剣、距離も縮まり子どもたちだけでなく大人も楽しみ、青空の下で大人たちの滝を登っていく子どもたちに、たくましさを感じました。笑顔いっぱいの運動会となりました。

発達講座 2023　12/16(土)　恵の実保育園

『乳幼児期の発達と健康』 ～大切な人の笑顔を見ずに子どもは育つか～

田中真介先生(京都大学国際高等教育院准教授)をお招きして

2023 年 12 月 16 日(土)に京都大学国際高等教育院准教授の田中真介先生による発達講座を開きました。近隣の保育園の保育士や発達支援事業の職員 50 名以上が参加しました。今回は、10 カ月から1歳半の発達に焦点を当てると共に、コロナ禍におけるマスクの着用が子どもたちの発達にどのような影響を与えたのかについても語られました。大事な 1 歳半の飛躍の時期にマスク生活を経験した子どもたちは相手の気持ちを実感しにくい状況で育ったことで、9、10 歳の節目を越えにくいのではないか？乳幼児にとっては目だけでなく口元も大切な情報源で、笑顔を見ずに子どもは育たないのでは？と話されました。また先生は、子どもが積み木で遊んでいる時に、積み木ができたということ以上に「積み木を介して相手とのつながりを作ること」「気持ちのやり取りを大事にすること」が大切なのだということを話されました。助けを求めたり、共感を求めて視線を投げかけてくる力はチンパンジーにはなく、人間だけが持つ大事な力なのだそうです。そんな話から「見て、これできたよ！」「これ欲しいよ！」というメッセージが子どもたちから届いた時に受けとめられる大人がいることがとても大切だと感じました。また大好きな人、大好きなものがはっきりしてくるからこそ、1 歳半のイヤがしっかりと出てくることも学びました。

先生のお話を聞いて、乳幼児期の発達にとって周囲の大人(親・保育者)の関わりの重要性をあらためて感じました。

年末の餅つき大会

12/28(木)　つばさ・つばさっこ保育園

年末の恒例の行事として、昨年に続きもちつき大会を行いました。みんなで大掃除をしてから、ホールで 0 歳から 5 歳のリズムを親御さんたちに見てもらい、そのあとで餅つきをしました。草もちをついたとき「おもちの色がどんどん変わっていく、おもしろいなー」と子どもたちは大喜び。つきたての餅を親子で食べながら交流もしました。普段子どもたちのリズムを見る機会があまりないので 0 歳から 5 歳の全員でのリズムは、親御さんたちから「新鮮でとても良かった」との感想が寄せられました。時間の余裕がなかったので親御さんの参加はありませんでしたが、来年度はもう少し時間をとって親御さんたちにもリズムを体験してもらうと良いと思いました。

雪合宿

第 1 回 1/18～20 恵の実・おひさま
第 2 回 1/25～27 たけのこ・つばさっこ・蓮華

雪のほとんど降らない東海地区の子どもたちにとって、山の中腹にある古民家を改造して造られた野俣家での 2 泊 3 日の雪合宿はとても貴重な体験です。起伏のある家の周りでのソリ滑り、雪合戦（大人対子ども）、雪だるまや雪まくりなど雪国の遊び。雪の散歩で動物の足跡を見つけたり、植物の冬の姿を観察したり、今年は秋に熊が登って実を全部食べたという栗の木の熊棚を見せてもらいました。2 日目のかまくら造りでは 3 グループに分かれて、雪をスコップでソリに乗せる、かまくら予定地にソリの雪を運ぶ、積まれた雪を踏み固めるという仕事を大人も子どもも一緒になって交代してやり続け大きな雪の山を造りました。その後はお父さんたちが穴を掘りみんなが入れるかまくらが完成。かまくらの中で食べたお餅の美味しかったこと！その後それぞれ雪のミニ灯篭をかまくらの周りに作り、暗くなってミニ灯篭の蝋燭に火が灯されると辺りは幻想的な雪世界に変わりました。また野俣さんのギターと語りで「三コ」のお話を聞き心豊かなひとときも共に過ごしました。

この合宿で仲間と力を出し切り大きなかまくらを造り上げた達成感や雪遊びを満喫した子どもたちはまた一回り身体も心も大きく成長しました。

節分　2/2(金) おひさま保育園:愛知県名古屋市

今年は季節の移り変わりが早いですね。2 月は節分の行事を行いました。年長児は 1 月終わりから粘土で鬼の型を作り、細かく切った障子紙を何枚も薄く溶いた糊で張り合わせて、乾いたら色を塗って鬼のお面を作りました。保育園に隣接してある大高城跡公園で豆まきをしました。勿論、年長児が鬼役をやってくれました。保育者も、リアルな既製の面をつけて鬼役です。太鼓の音とともに森の中から「寒がり鬼」「食いしんぼ鬼」「泣き虫鬼」「病気鬼」等悪さをする鬼になって現れる小鬼達。皆の投げる豆でやっつけられて森の中に退散です。泣く子もいましたが、皆「鬼は外！福は内！」と、一生懸命に豆をぶつけていました。給食には、いわしの丸干しが一匹、大豆入り五目汁等、おやつには大阪発祥の文化がいまでは定着した恵方巻＝太巻きを頂きました。「その年の恵方を向いて無言で丸被りすると幸運に恵まれる」と言われます。2 月 4 日は立春。世界の皆が平和に暮らせるようにあって欲しいと願わずにはいられません。

卒園を祝う会 おめでとう！　2/24(土) 恵の実保育園ホールにて

東海地区 5 園(恵の実、おひさま、たけのこ、つばさっこ、蓮華)51人が年長交流最後のお祝い会を行いました。今年度はコロナが 5 類になったこともあり、毎回5園揃って交流することができました。5 月恵の実にて初めての交流に始まり、1 泊の合宿は 6 月蓮華、9 月たけのこ、11 月大高緑地、名古屋市青少年センターで行い、12 月つばさっこ、1 月たけのこ、2 月は 3 回恵の実で日帰り交流をしました。また宿泊の関係で 2 園と 3 園に分かれますが、夏は八方登山、冬はかまくら造りと雪遊びを長野県小谷村で、2 泊 3 日の合宿を行い、交流を深めてきました。リズムの指導はいつも佐藤美津子さんにお願いし、後半は5園入り混じったグループを作り活動してきました。人数の少ない園が多いので、この年長交流は、子どもたちはもちろん、保育士にとってもとても貴重な学びの機会になっています。お祝い会では、子どもたちは初め会場のみんなの熱い視線に緊張していましたが、次第に気持ちもほぐれ、しなやかに、また力強くリズムをし、堂々とした姿で歌っていました。会う度に他園の子とも仲良くなり、どの子も自分の目標に向かって挑み、そんな姿をみんなで応援し頑張りをたたえ合いました。当日は、かけつけてくれた小谷村の野俣俊隆さんの話や歌に、夏の八方登山や雪合宿の時の事を思い出し再び感動を味わいました。この 1 年間、仲間と共に乗り越えた体験、大人も子どもも一緒になって力を出し切り作り上げた感動は、一生の宝物だと思います。